

河宇地区林業振興協会のH27活動紹介

河宇地区林業振興協会は会員数11名と、他の林業地域と比較すれば団体の規模は小さいですが、利根山会長を中心に各会員がまとまって地域林業の振興に努めており、宇都宮市林業振興会と連携した活動を展開しています。

当地区は河宇地区ということで都市近郊の森林が主体で、所有形態も小規模・分散していることが多く、施業集約化や路網整備の推進を図る上で他の林業地域以上に大変な点もありますが、各会員は日頃より熱心に林業経営の改善と森林整備の推進に積極的に取り組んでいます。



平成28年2月22日(月)に、芳賀地区林業振興協会・宇都宮市林業振興会の3団体合同で佐野市の晃洋設計測量(株)の無人航空機(ドローン)試験飛行場とGPSを利用した境界測量、住友大阪セメント(株)栃木工場のバイオマス発電と企業による植樹活動のとり組みについて研修を行いました。

森林施業のための調査は体力的、時間的に辛いことが多いですが、無人航空機(ドローン)を使うことにより早く安全に調査ができることなどメリットがあり会員からは強い関心がありました。また森林の境界について、GPSで測定した座標データがあれば、後継者等への引き継ぎがスムーズになるほか航空写真と境界を重ね合わせ視覚的な確認が容易にできるなどの利点などあり会員からは所有山林の境界を確定させ測量を実施してみたいなどの積極的な意見や質問がありました。

バイオマス発電は今年の研修に続いてですが発電規模や使用燃料のストックヤードの大きさに圧倒されました。また、企業による植樹活動についても活発な意見や質問が出されました。

なお、3団体合同で開催したこともあり総勢16名の参加となり、日帰りの研修でしたが往復のバスの車内では、最近の林業における情勢の説明や、会員間の情報交換等も行われ実りある研修となりました。

